

早期臨床実習を終えて

早期臨床実習を終えて

歯学部歯学科2年 内田 俊

小学生の頃、父が歯科用の口ウで大きな歯の模型を私に作ってくれたことがある。確かあれは私が母親の目を盗んで、何か遊べるものはないかと実家の歯科医院の技工室に忍び込んだ時のことである。「これは口の中のどの部分の歯だろう。」まだ乳歯も抜け切れていない私の心に疑問を残し、あれから随分と長い月日がたった。

そんな私も大学2年生になり、日々歯と寄り添う日々を送っている。実際に病院に出て行う早期臨床実習も終えた。「早期」という言葉は何かと未熟さがつきまとうイメージがある。その通りだ。この実習でやることはほとんど基本的で、退屈で、よく分からない。先生方の説明はまるで呪文だ。しかし、そのすべてが将来の土台になる。実習ではグループでローテーションしながら主に歯科の各診療科の治療を見学する。まだ歯については少しかじっているくらいの知識しかない我々でも、将来自分がやりたい診療科やイメージ像を想像するには十分なものであった。その診療科は、義歯補綴科、歯周病科、矯正歯科、歯科麻酔科、小児歯科などその他にもたくさんあり、多様な口腔内の異変に対処できるようになっている。その中でも私が一番記憶に残っている診療科、というより愕然として忘れられない診療科が「顎顔面口腔外科」である。他の科では実際の患者様の治療の様子を見学させていただくのだが、この科では症状が他に比べて稀であったり、患者様の精神的要素の考慮などで写真での解説が主であった。その中で先生が症状や治療例、また術後の解説をしてくれるのだが、ある患者様は嚢胞（膿が入った袋状のもの）が顎骨の中に生じ、顔の大き

さが2倍になるくらいパンパンに腫れていた。それを見ただけで茫然としたが、それだけではなく嚢胞が大きくなりすぎて呼吸困難の症状も出ていたと聞いて自分の呼吸も止まりそうになった。挙句の果てには嚢胞の圧力でその顎骨の一部が花火のように破裂してしまっているレントゲン写真で私はとどめを刺されてしまった。その患者様は無事嚢胞を摘出できたそうだが、執刀医の技術やそれをサポートする歯科医、看護師、そして現代の医療技術を目の当たりにしてとても感銘を受けるとともに、自分がその時着ていたダボダボの白衣の本当の意味を少し理解した瞬間であった。

もうすぐ3年生になる。順調にいけば約4年後には歯科医となる。患者様の健康に、命に常に寄り添わなければならない。もし歯科医としての基本姿勢を忘れそうになったら、この早期臨床実習での純粋な驚きや、あの時の大きな歯の模型を見て抱いた「歯」というものに対する奥深さ、初心などをしっかりと思い出したい。そして将来は今亡き父親のような立派な歯科医になり、あの日父親が見ていたであろう面影を、今度は私が十分に眺めたいと思う。大きな歯の模型を添えて。



筆者（中央）

早期臨床実習を終えて

口腔生命福祉学科2年 牧口由依



無事2年生に進級し、改修工事を終えて新しくなった講義室を横目に、私たちの学校生活はまだ古く狭い診療室の跡地で始まりました。そのような環境の中で不安を抱きながらも、今年

から始まった歯科や福祉の専門的な講義・実習に期待を持ちながら日々を過ごしていました。4月にもらったシラバスを見て、2年生の前期には早期臨床実習ⅡBがあることを知りました。1年生の前期の早期臨床実習ⅠAの応用編だと思っていましたが、内容が全く異なり施設見学や介護体験を行いました。実際に医療や福祉、保健の現場を訪れ、そこで働く歯科衛生士や社会福祉士はどのような仕事をしているのかを学ぶことができました。この実習では、新潟市児童相談所・ばんだい桜園・新潟市医療センター・新潟市保健所を見学させていただきました。当初の私のイメージでは、歯科衛生士は病院や診療所で活躍する職種であると思っていたので、実際に施設を見学して、自分は将来このような場所で働くことになるかもしれないと考えているとさまざまな関心や疑問が生まれました。

児童相談所は児童虐待の相談をする所であるというイメージを抱いていましたが、虐待だけでなく児童に関する障害や非行などの相談も受け付け、虐待予防の子育て支援としてさまざまなプログラムや講座を行っていることを知りました。ばんだい桜園は、私がこれまでに見たことのある老人ホームとは異なった印象を受けました。10名で

1つのユニットとして生活をするユニット型というスタイルを取り入れているため、もっと大きな集団で生活をする従来型と比べて管理がしやすく、ひとりひとりに目が届きやすいそうです。そして、都市型であり入居者の状態を確認するのに訪問しやすい立地であるため非常に面会者が多く、入居待機者が増えているのも事実です。このように現場を訪問することで、高齢化や虐待など最近よく耳にする社会問題が実際に身近で起きていることを実感でき、座学で得た知識だけでは分からないようなことを専門家から聞くことができました。

保健所では3歳児健診を見学させていただきました。ただ体や口腔内の状態を診るだけでなく、母親に問診している際も子供の様子を見ていたり、それぞれの生活や食習慣に合わせた保健指導を行っており、観察力や指導力が必要であると感じました。医療センターでは、実際に歯科衛生士の方からそこでの仕事について教えていただきました。外来患者を診るのが主な仕事であると思っていましたが、医療センターの入院患者の受け入れ、隣接する老人ホームへの訪問診療、栄養サポートチームや摂食・嚥下チームへの参加など、歯科衛生士の活躍の幅は広いことが分かりました。また、医科やリハビリテーション科など他の科との連携があり、コミュニケーション能力も必要であると思いました。そして、口腔と全身の健康は相互に影響するということを改めて感じ、まだまだ知識が足りないということを実感しました。

この実習を通して、歯科衛生士・社会福祉士に必要な知識や能力を学ぶことができ、将来自分があるべき姿を考えることができました。これからはそれを意識しながら、日々の実習・講義・PBLに励みたいと思います。